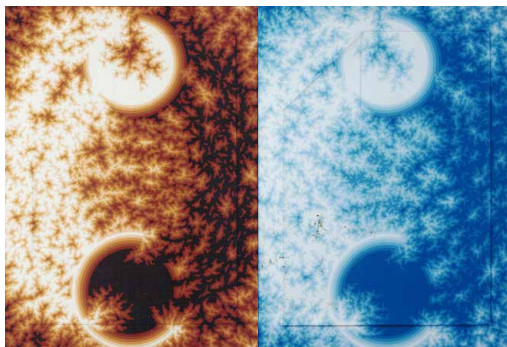
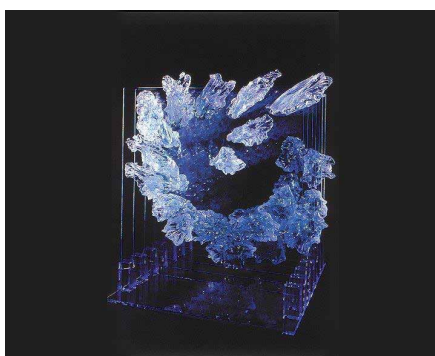




撮影：岡本譲治



撮影：島山崇



リ・シンビズム そして未来へ Re-SHINBISM 3

2026.11.7 Sat → 11.29 Sun 9:00-17:00 (入館は16:30まで) 月曜休館 (祝日の場合は開館、翌日休館)
[入場料] 一般500円、高校生以下無料 (お支払い方法は現金のみ)

安曇野市美術館 企画展示室 (6、7、8、大展示室) 〒399-8205 長野県安曇野市豊科5609-3

お問い合わせ＝信州アーツカウンシル((一財)長野県文化振興事業団 アーツカウンシル推進局) TEL.026-223-2111

〒380-0928 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内1階 FAX.026-223-2112 / E-mail: info@shinbism.jp

SHINBISM 2026
シンビズム

文化庁
Agency for Cultural Affairs
Government of Japan

信州アーツカウンシル

長野県
150th
NAGANO

シンビズムは、2016年度より長野県芸術監督の本江邦夫氏のもと、県内美術館などの学芸員が所属を超えて交流し、同じ立場で協議しながら信州ゆかりの出品作家を選定、これまでに第1回～第6回展とシンビズムの作家のその後を追い振り返る「Re シンビズム」2回、合計8回の展覧会を計24会場にて開催してきました。この間、全85名(Re シンビズム展を含めるとのべ117名)の作家を紹介し、関わったワーキンググループ学芸員のメンバーはのべ263人にのぼります。シンビズムの活動は、全国屈指のミュージアム数を誇る長野県ならではの先進的な取り組みとして注目を集めています。

本展は、2019年度に開催したシンビズム3の作家たちに焦点をあて、県内4館で同時開催した作家の作品が安曇野市に会することで、その後の7年間を振り返り、作品を巡る状況がどのように変化しているかを示し、今を見つめる企画展としたいと考え、「Re-SHINBISM 3」と名付けました。

「Re」には「再び」の他に、Reconsider(再考する)、Reborn(再生)、Relate(共感する)、Respect(尊重する)の意味も込めています。

また、シンビズムは2026年度で10周年を迎えました。この間に博物館法が改正され、博物館の「連携」が重要な項目として位置づけられています。多様化する

Re-SHINBISM 3 そして未来へ

博物館の使命を博物館同士、そして様々な分野の主体と連携することによって、博物館が地域で多様な価値を発揮することが期待されています。この機会に、10周年記念シンポジウムを開催し、連携の実践を重ねてきたシンビズムを検証し、地域と美術館、アーティストの関わりについてみなさんと一緒に考えたいと思います。

*展覧会名の「シンビズム」は「信州の美術の主義」の造語で、新しい美術、真の美術、親しい美術等の意味を含んでいます。

■イベント情報 参加無料(但し、展覧会入場料は必要)

11/7[土] 場所:安曇野市美術館 2階

13:00 【関連企画】長野県×東京藝術大学・安曇野AIRギャラリートーク

14:00 Re-シンビズム3出品作家、顧問、学芸員によるギャラリートーク

15:00 シンビズム10周年記念シンポジウム

「地域と美術館、アーティストの関わり」

関連企画(日程が決まり次第、公式サイト等でお知らせします)

◎来館者にむけた対話鑑賞イベント

◎児童生徒にむけた対話鑑賞イベント

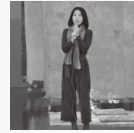
◎県内教員・学芸員にむけた対話鑑賞ワークショップ



大曾根 俊輔(乾漆彫刻)
《木彫シロクマ立像》2026年
白樺/黒漆/オイルパステル



柿崎 順一
(現代美術、ビジュアルアート、フラワーアート)
《Mask the Border | 境を覆う》2022年
インスタレーション



前沢 知子
(絵画、写真、インスタレーション、ワークショップ)
《瓦葺／長野県飯田市》
1996年
写真



榊原 澄人
(映像、インスタレーション)
《Solitarium》2015年
アニメーション



宮坂 了作
(土と、自然と結びつけた
コンセプチュアル・アート)
《聖地》《聖海》1990年
キャンバス、アクリル



眞板 雅文
(インスタレーション、彫刻)
《水鏡》1989年
鉄に塗装、水



増田 洋美(ガラス)
《PLAY THE GLASS con brio》1999年
ガラス、アクリル



丸山 雅秋(彫刻)
《存在－関係》2026年
ブロンズ



塚田 裕
(絵画、インスタレーション)
《drawing cube 120》2023年
キャンバス アクリル



山内 孝一(インスタレーション、立体造形、絵画)
《フォーマットを編む》2019年
割竹、ススキ



米林 雄一(彫刻)
《微星音》2025年
木、グラフィイト、ステンレス

主催＝信州アートカウンシル((一財)長野県文化振興事業団)、長野県／共催＝安曇野市、安曇野市教育委員会

顧問＝笠原美智子(長野県立美術館長)／運営アドバイザー＝石川利江(ISHIKAWA地域文化企画室代表)／エデュケーションアドバイザー＝三澤一実(武蔵野美術大学教授)／企画・構成＝信州ミュージアム・ネットワーク「シンビズム」ワーキンググループ:工藤美幸(佐久市)、由井はる奈(佐久市立近代美術館)、宮下真美(ギャラリー1045)、名取淳一、中嶋実・鈴木一史(小海町高原美術館)、圓山佐登子(小海町)、山極佳子・大塚菜々美(上田市立美術館)、佐藤聡史(丸山晩霞記念館)、山崎麻由・佐野悠斗・小沢和実(東御市)、高野真希(星くずの里たかやま 黒曜石体験ミュージアム)、伊能あずさ(川越市立美術館)、鷹野雪菜、山岸吉郎・河西見佳(イルフ童画館)、酒井重明(市立岡谷美術考古館)、前田忠史・中田麻衣子(茅野市美術館)、鈴木真知子(アトリエももも)、小松由以(高遠町公民館)、川島周(辰野美術館)、小林一博(泰阜村立学校美術館)、矢ヶ崎結花、伊藤幸穂(木曾ミュージアムサポート)、坂口佳奈(木祖村教育委員会)、石井健郎(塩尻市立平出博物館)、三澤新弥・塩原理絵子(安曇野市教育委員会)、武井敏((公財)碌山美術館)、富永淳子(安曇野高橋節郎記念美術館)、大竹永明、田中想子(須坂版画美術館)、中村綾子(世界の民俗人形博物館)、田中新十郎(田中本家博物館)、布谷理恵(千曲市アートまちかど)、佐々木裕貴子(おぶせミュージアム・中島干波館)、水橋絵美(中野市立博物館)、小林宏子(前中野市立博物館)、阿部澄夫((一社)一本木公園バラの会 信州中野銅石版画ミュージアム)、大井ちひろ(山ノ内町立志賀高原ロマン美術館)、小野佳奈、梨本有見、松井正(長野県立美術館)・早川綾音・清水康平・伊藤羊子(信州アートカウンシル)

助成＝令和八年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業、一般財団法人地域創造 長野県150周年記念事業

※掲載作品は出品作品と必ずしも一致しません。